

収穫後は速やかに 耕うんしましょう！

～イネカメムシ対策としても重要です～

令和6年10月15日
加須農林振興センター

今年、埼玉県内では、稲の穂を加害するカメムシ類のうち「イネカメムシ」の発生が記録的に多くなっています。本虫の加害により不稔や斑点米が生じ、コメの収量・品質に大きく影響する事例も発生しています。

翌年の発生源となるカメムシの生息場所を減らすため、稲刈り後は、なるべく早く耕うんして刈株を埋没して枯らしましょう。

【イネカメムシの秋から冬にかけての生態】

成虫は9月ごろから、越冬のための養分を体に蓄えるため、盛んに稲穂を吸汁します。特に乳熟期から固熟期にかけての柔らかい時期の稲穂を好むようです。

このため、収穫時期の水田から移動したとみられる成虫が、ヒコバエの穂に多数寄生している様子も見つかっています（写真1，2）。

埼玉県内でのイネカメムシの越冬場所は、まだ不明な点も多いですが、10月以降、養分を十分蓄えた個体から水田を離れ越冬場所に移動していくと推定されています。



写真1
刈り株から捕獲
したイネカメムシ

写真2
ヒコバエを加害する
イネカメムシ

稲株の早期すき込みのメリット

カメムシ等の害虫の生息場所を減らす以外にもメリットはたくさんあります。

- ・年内にわらや刈り株の分解が進むため、田植え後の活着がスムーズになる。
- ・大雨による稲わらの流出・散乱が抑制できる。
- ・「クログワイ」などの雑草の塊茎を露出させ冬場の低温や乾燥で死滅させて減らす。



写真3 稲刈り直後のすき込み作業

写真提供：写真1 埼玉県病害虫防除所